



## 目次

附属図書館と情報連携基盤センターの 連携協力について (伊藤義人) .....	1
使ってみよう！電子ジャーナル Part . 1 どうやって使うの？ アクセスサービス .....	6
多元数理科学研究科図書室 学生閲覧室の改善について (谷川澄子).....	8

## 附属図書館と情報連携基盤センターの連携協力について

伊藤 義人

### 1. はじめに

平成14年4月に名古屋大学に情報連携基盤センターが創設された。この概算要求は平成10年8月に松尾総長が本学の情報基盤の安全保持と将来計画の現状と立案を提案され、平成10年9月に開始された情報系部局長懇談会を契機として、旧大型計算機センター、附属図書館、情報メディア教育センターが、学内では初めて複数部局がまとまって行った概算要求である。平成11年1月の評議会で「名古屋大学情報基盤整備充実検討委員会」とその専門委員会が設置され、文部科学省と順次協議しながら概算要求をまとめた。附属図書館はこの概算要求の作成に最初から最後まで関係し、特に電子図書館機能研究の部門創設に務めた。

創設された情報連携基盤センターは、旧大型計算機センターを廃止し、その組織全てと、情報メディア教育センター、附属図書館および全学から人的資源の支援を受けて、全国共同利用施設の性格も継続しながら、学内情報基盤の整備充実に寄与する4部門構成(教授4、助教授4、助手4、客員教授1)の研究センターとし

て創設された。

情報連携基盤センターは、研究を行うと同時に情報基盤に関するサービスをする組織でもあるので、学内外の組織と強力に連携協力をするが、特に附属図書館とは密接な連携協力を行うセンターである。

### 2. 情報連携基盤センターの成り立ち

#### (1) 情報連携基盤センター創設の背景と目的

旧大型計算機センター、附属図書館、情報メディア教育センターなどの情報関連部局などは、その設置目的に適合したシステムを運用管理しながら情報やサービスの提供を行ってきたが、近年のデジタル技術の急速な進歩に伴い、情報処理技術の進化、計算機利用の質的な変化、ネットワークの利用拡大により、情報関連部局の提供するサービスにも大きな変化が求められていた。このような潮流の変化は、各部局の単独での対応ではなく、効率的な連携を図ることによってはじめて時代に合致した全学の新しいニーズに適切に対応できると考えられた。

新しい学問領域や新しい研究手法を取り入れ、世界最高水準の教育研究を支える情報基盤

整備（学術審議会答申 平成11年6月）は、大学院重点化がほぼ達成された名古屋大学として急務であった。情報化時代はグローバル化といわれるように各組織が情報基盤上で結合され、均一化されるが、その時代には各組織がその個性を主張できる能力を持つ必要がある。すなわち情報共有による組織の均一化は、逆に組織の差別化を求める。他組織との差異を意識した先進的教育・研究活動のためには、各組織に共通的な諸問題を共有化する組織を持つ必要がある。この組織は情報関連部局だけでなく学内の全部局との連携、他大学や試験研究機関との連携、企業との連携協力をも視野に入れた名古屋大学の情報基盤整備として強力に推し進める必要があると考えられた。

このために、時代に合わせて全学の情報戦略を統一的にデザイン、推進する組織が是非とも必要であるので、新しい情報支援ニーズに対応可能な大型教育研究組織の情報連携基盤センターを新設し、これを名古屋大学情報化戦略中枢とすることになった。情報連携基盤センターは21世紀の高度情報化社会に対応できる大学の情報環境を実現するために、部局の枠を越えて、全学的視野にたった情報基盤を統一的に企画・立案・推進する組織である。また、学内外の情報拠点と連携し、共有化することによって、名古屋大学の教育、研究の高度化、先端化を図るものである。情報連携基盤センターの研究部門は、4つの研究部門からなり、学内外からの知能や技術力を集結し、知の醸造を行うことによって、「情報基盤組織化」に関する研究を行うとともに、情報基盤整備・運用、およびその利用の支援を行うことを目的にしている。

## (2) 研究部門の構成と役割

図-1に、情報連携基盤センターの部門構成およびその概念図を示す。図には、これまで説明してきた情報連携基盤センターの役割と、学内外の組織との連携と支援の関係を示している。各研究部門の概算要求時の役割は以下のよ

うである。

- 1) 情報基盤システムデザイン研究部門では地域社会の一員としての大学情報基盤のあり方を明らかにし、その設計・構築方式の研究を行う。この部門はネットワークや分散化された情報資源を組織化する方式をデザインする情報基盤システム研究グループと、学内情報の体系化を図り、情報発信、情報管理の方式をデザインする学術情報組織化研究グループからなる。
- 2) 学術情報開発研究部門では符号化されていない情報をデジタル化するための支援方式を研究する。情報基盤を前提とした電子図書館のあり方を明確にし、学内の研究情報を世界に発信できる名古屋大学学術情報アーカイブや、一般図書と電子情報が有機的に結合したハイブリッドライブラリーなどの研究を行う電子図書館システム研究グループ、広く分散し埋もれているデジタル情報を体系化し、かつ常に最新データを提供できる形に加工する方式を研究する学術情報体系化研究グループ、そしてどのようなコミュニケーション媒体を利用し、どのような表現を行えば的確な情報交換が可能かを認知論的、情報論的、社会論的に探る高度情報支援システム研究グループからなる。
- 3) 情報基盤ネットワーク研究部門では学内外の情報網の効率的で安全性の高い運用を研究する。この部門で学術情報ネットワーク、図書館ネットワーク、学内ネットワークの相互運用方式・最適化方式を研究するマルチメディアネットワーク研究グループ、知的所有権を確保し、優れたコンテンツを安全に、かつ効率的に電子配信するための情報セキュリティなどの研究を行うセキュアネットワーク研究グループと、ウェアラブルコンピューティングなどの遍在計算機環境（ubiquitous

computing) ネットワーク時代の計算モデルのsecure computingなどの研究を行う次世代ネットワーク研究グループからなる。

- 4) 大規模計算支援環境研究部門では世界の最先端を行く計算機利用技術の開発を行い、その利用技術の汎用化・一般化を通して、次世代の情報基盤の構築を目指す。全国共同利用のためのスーパーコンピュータの応用技術、グリッドコンピューティングなどの先駆的利用法を研究する超並列計算技術研究グループを置く。また、学内外の多くの計算機を連携して稼働させ、大規模計算を可能とする超分散処理方式を研究する超分散計算機環境研究グループを置く。

各部門は、教授 1、助教授 1、助手 1 からなり、学術情報開発研究部門については客員教授も措置されている。情報連携基盤センターでは、任期制を導入し、旧大型計算機センターから直接継続した教官を除き、教授 7 年、助教授 5 年、助手 3 年の任期が付き、再任を 1 回認めている。これは、時代に合わせて研究テーマを設定し直し、情報基盤整備運用に柔軟に対応するためである。

### 3. 附属図書館との連携協力

附属図書館と情報連携基盤センターとの連携は、創設の経緯からも分かるように強く求められている。特に、学術情報開発研究部門は、主として電子図書館機能を研究開発する部門であり、附属図書館と密接な関係を持つ。学術情報開発研究部門の具体的な役割を示したものを図 - 2 に示す。

附属図書館の研究開発機能のために、情報連

携基盤センターに先だって、平成13年4月に附属図書館研究開発室(室長:附属図書館長)が全学の支援を受けて専任助教授1、専任助手1、兼任教授1の構成で学内措置施設として創設されている。平成14年4月には、兼任室員が増強されて、11人体制となっている。この中には、情報連携基盤センターの教官が4名入っている。すなわち、情報連携基盤センターの学術情報開発研究部門の教官は、自動的に附属図書館研究開発室の室員として兼任となることが、創設委員会で認められている。これは、附属図書館研究開発室と強力な連携協力をし、学内の電子図書館機能を時代に合致させて強化するためである。情報連携基盤センターは、電子図書館機能のハード・ソフト基盤について、附属図書館と連携協力して整備し、附属図書館はコンテンツについて中心的な役割を果たすことが求められている。

情報連携基盤センターの運営委員会の下にある専門委員会の1つである学術情報開発研究専門委員会には、逆に附属図書館研究開発の専任室員が委員として入っている。大学全体を臨場的フィールドとして使い、実践的な電子図書館機能の研究開発を行い、全国、さらには国際的にその成果を発信することが望まれている。

### 4. おわりに

概算要求資料などを基に、情報連携基盤センターと附属図書館などとの連携協力のあり方などを述べた。情報連携基盤センターはできたばかりであるが、図 - 1 に示した種々の新しいサービス機能を持つことを前提に創設されており、今後、急速にその存在感が学内で増すことを望みたい。

(いとう・よしと 附属図書館長)

図 - 1 情報連携基盤センターの概念図

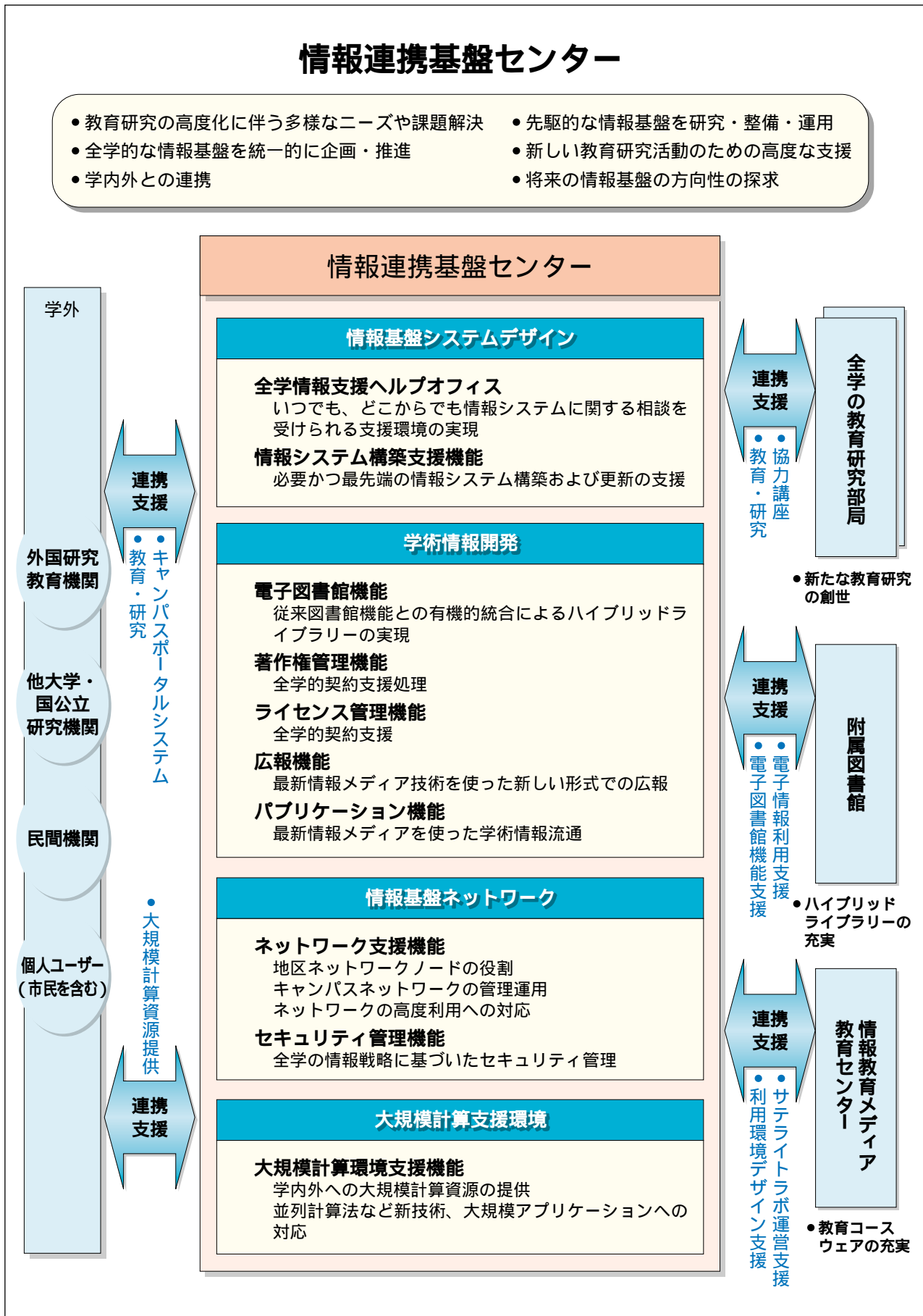
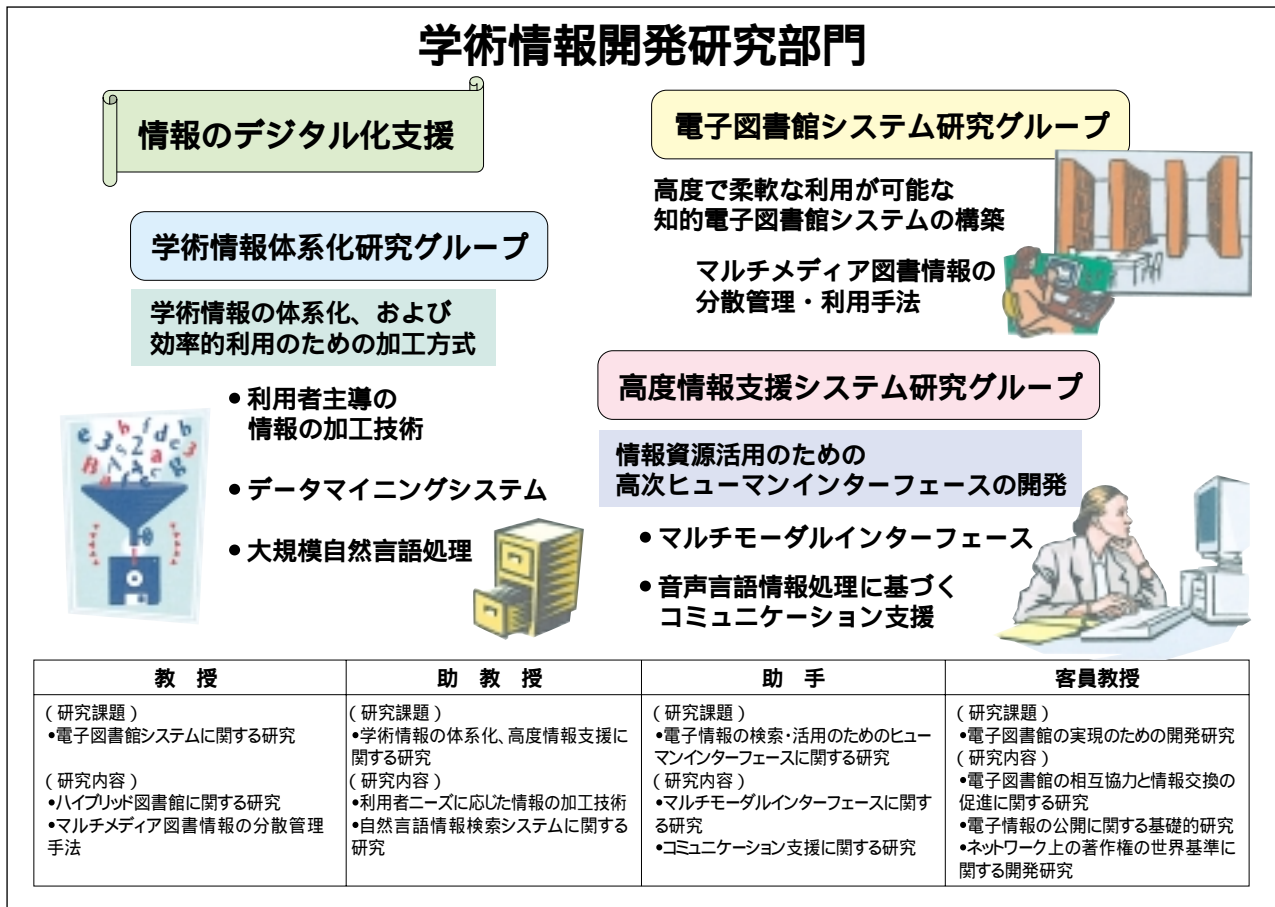


図 - 2 学術情報開発研究部門の役割



## お し ら せ

古書は語る  
 — 館蔵の江戸文学資料を中心に —  
 展示期間：平成14年10月16日（水）～ 31日（木）  
 （24日は休館日）  
 ギャラリートーク：10月26日（土）午後1時30分～3時  
 会場：中央図書館4階 展示室及び演習室

### 雑誌記事索引・MAGAZINEPLUSに名大OPACリンク機能追加

6月より雑誌記事索引・MAGAZINEPLUSに名大OPACへのリンク機能が追加され、検索結果から直接名大での所蔵巻号の確認ができるようになりました。

### Journal Citation Reports (JCR)Web版

6月より新たに、インパクトファクター（文献引用影響率）を調べることができるツール、JCRのWeb版（2000～2001年度版）を、Web of KNOWLEDGEをプラットフォームとして提供開始しました。利用マニュアルは参考調査掛にご請求ください。

どちらも、附属図書館HP <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp>よりお使いいただけます。





図2 一覧リスト(例)

The screenshot shows a list of electronic journals with callouts explaining their access conditions:

- Callout 1:** EJ契約誌 (EJ Contracted Journals) - 1998.10からフルテキスト利用可 (Full text available from 1998.10).
- Callout 2:** print版 (情報文化学部)購読誌 (Print edition for Information Culture Faculty) - 2000年からフルテキスト利用可 (Full text available from 2000).
- Callout 3:** 非契約誌 (Non-contracted Journals) - 抄録は1993年から、フルテキストは1997年から利用可。ただし、最新6ヶ月は利用不可 (Abstracts available from 1993, full text from 1997, but latest 6 months are unavailable).
- Callout 4:** print版 (医学部)購読誌 (Print edition for Faculty of Medicine) - 利用に必要なID / passwordはここ (ID/Password required for use is here).

The list includes titles such as Jakarta Post, Japan Country Report, Japan Forum, Japan Quarterly, Japan and the World Economy, Japanese Circulation Journal, Japanese Journal of Clinical Oncology, Joint Bone Spine, Journal of AAPOS, and The Journal of Academic Librarianship.

が表示されます。(注：このパスワードは学内者専用です。取り扱いに注意してください。)

その他の表示について詳しくは、リストの最初、“More info of Lists”を見てください。

図2のリストから誌名をクリックすれば、出版社等のHPへリンクしています。各々のページのつくりは各雑誌などにより、それぞれ異なります。Current Issueで最新号が見られたり、また、VOL, YEARがリストになっていて、見たい巻号を探せるようになっていたりします。出版社等によっては、著者やタイトルから検索できるようになっているものもあります。

出版者等HPで目当ての号、論文タイトルにたどりついたら、Full Textや、PDFといった表示やアイコンを探してクリックすれば全文が表示されます。HTML形式ならブラウザでそのまま見ることができ、参考文献などへのリンクが張られている場合もあります。PDF形式は印刷イメージです。最近のものであれば印刷物と遜色のないプリントをとることもできます。

EJを利用するときは公正利用に留意してください。契約誌の利用は名古屋大学構成メンバーの個人的な利用に限られます。“公正利用の注意/Copyright & Fair Use”を一度ご確認ください。自動ダウンロードや再配布は禁止されてい

ます。違法行為は大学全体の利用に影響を及ぼすおそれがあります。

では、みなさん、まずは一度EJアクセスを利用してみてください。詳しい“利用の手引き”もこのHPに掲載しています。わからない点は、部局図書室または中央館参考カウンター(E-mailは下記)へお尋ねください。

(参考調査掛)

### お願い

附属図書館では、このアクセスサービスのデータの更新、出版社等へのクレーム作業を随時行っています。EJアクセスのリスト表示で利用可能でありながら、フルテキストにアクセスできない場合は、具体的な誌名・巻号・状況を添えて部局図書室にお申し出くださるか、参考調査掛あてメールE-mail: sanko@nul.nagoya-u.ac.jpでお知らせください。調査・対応いたします。このアクセスページに関するご意見・ご要望もお寄せください。みなさまの情報をお待ちしています。

次回からは代表的なパッケージについて順次解説していく予定です。また、春に行った初級編に引き続き、秋には、“EJ説明会中級編”(PC実習つき)の開催を予定しています。

## 多元数理科学研究科図書室学生閲覧室の改善について

谷川 澄子

多元数理図書室は約20年前に現在の所に移転して来ましたが、その際に長期的観点から設計されていた為、2000年度後半から行われた改修でも大きく変更することはありませんでした。しかしこの改修期間中は、ほとんどの図書をダンボールに入れ、別置・保管したために学内や学外の図書館・室の方々には大変お世話になりました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今回図書室の改修後の様子について原稿を依頼されましたが、昨年秋から学生閲覧室の改善と充実に向けて検討を行ってきており、全国的にも余り例のない事だと思われまますのでそれについて述べさせていただきます。

学生閲覧室（58.5平方メートル）は21席を設け学生の利用に供する適切な図書を配架していることになっていますが、これらの図書はここに移転して来た当初の蔵書そのままに新陳代謝が余り行われずに至っておりました。数学にとって本は、研究・教育上の重要なツールであり、由々しきことでした。そのため図書委員を主なメンバーとして、学生閲覧室改善の検討を始め、これまで和書を中心として約1200冊ほどを点検・選定作業を行っていただき、この春には和書についてはほぼ選定した図書を並べることが出来ました。

改善前の問題点は、卒業研究/大学院セミナーの図書展示は行われていたものの、蔵書そのものはほとんど新陳代謝がなく、また現在の学生の学力を考慮した適切な学習用図書ではありませんでした。また図書の配列も著者順になっており、分野別に教科書を探したい初心者の方には不親切でした。さらにシリーズ物などが禁帯出となっておらず、求める本が帯出され学習意欲をそぐ結果となっていると考えられました。そのため学生閲覧室の学習用図書及び叢書の類は全て禁帯出とすることになり、必ず貸出しの

ための複本を別に置くことになりました。

図書の配架は下記のように変更しました。

### 1. 学習用図書：

代数、幾何、解析、情報、物理、基礎論\*、応用数学\*、数学教育\*とし3段階の難易度を設定し、目的に応じて本を探せるようにしました。1 = 初年次、3 = 学部、4 = 学部4年から大学院（\*は4のみ）



### 2. 叢書類（シリーズの巻数順に配架）

### 3. 名著（評価が確立している図書）

### 4. 数学史

### 5. 数学の入門的な読み物

### 6. 辞書・事典、参考書

これらは利用意欲を高めてもらえるよう、図書の配架も利用者の目の高さを意識して、余りに低い所や高い場所は外し、また出来るだけ新本に買い換えを行うなどのことも考慮しました。

和書の整備がおおよそ終わった頃に2年次学生の演習を受け持つ先生方が学生を連れて図書室を訪れガイダンスツアーを行いました。これはなかなか好評でした。

今年度これからは、洋書の選定と今後の補充について引き続き検討がなされ、一層の充実が期待されています。

（たにがわ・すみこ 多元数理科学研究科図書室）





- ・第14-2回商議委員会 6.6
  - ・電子図書館推進委員会専門委員について
  - ・附属図書館長候補者の選考日程について
  - ・附属図書館研究年報編集規定及び投稿規定について
- ・第3回研究開発室教官会 6.17
- ・第14-2回図書館システム検討委員会 6.28
- ・第14-1回地方史文献コーナー小委員会 6.28
- ・第14-3回学術情報事務会議 7.2
- ・文系図書連絡会 7.2
  
- 研修会・講習会等への参加
- ・新入生のための「図書館ガイダンス」(於：名古屋大学豊田講堂) 4.9~10
- ・国際開発研究科新入生ガイダンス(於：言語情報処理室) 4.9~11 参加者129名
- ・留学生のためのライブラリーツアー(English)(於：名古屋大学) 4.10
- ・留学生ガイダンス(於：名古屋大学ソポゾホール) 4.11
- ・TAのための情報探索法指導者講習会(於：名古屋大学) 4.11,12,23 参加者70名
- ・留学生のためのライブラリーツアー(Japanese)(於：名古屋大学) 4.12
- ・遡及入力講習会(於：名古屋大学) 4.15~23 参加者14名
- ・ISI説明会(於：名古屋大学) 4.16 参加者24名
- ・大学院生・学部生のための「利用者ガイダンス」(於：名古屋大学) 4.22~23 参加者：14名
- ・平成14年度東海地区国立学校等初任職員研修(於：名古屋大学および中津川研修センター) 4.23~26 参加者：山川幸恵(医) 近藤悦子(経) 眞野博和(農)
- ・電子ジャーナル利用説明会(EBSCOhost FirstSearchECO, ProQuest)(於：名古屋大学) 4.24・26 参加者110名
- ・国際言文新入生図書館利用ガイダンス(於：名古屋大学) 5.1,8 参加者：16名
- ・CrossRef 講演会(於：丸善名古屋支店) 5.9 参加者：川添真澄(中)
- ・平成14年度名古屋大学初任職員(事務系非常勤職員等)研修(於：名古屋大学) 参加者：平田沙矢香(医)
- ・ISI説明会(於：名古屋大学) 5.28 参加者8名
- ・第23回EDCセミナー(於：中央大学) 5.28~29 参加者：近藤悦子(経)
- ・電子ジャーナル利用説明会(Web of Science)(於：名古屋

- 屋大学) 5.29 参加者57名
- ・電子ジャーナル利用説明会(Science Direct)(於：名古屋大学) 5.30 参加者53名
- ・CrossRef 説明会(於：名古屋大学) 6.4 参加者38名
- ・丸善図書館フェア-2002セミナー「医学・看護系論文情報の現状と将来像」(於：丸善名古屋支店) 参加者：豊岡曜子(医保健)
- ・2002年EDC/DEPトレーニング・セッション(於：欧州連合(EU)駐日欧州委員会(東京)) 6.12~14 参加者：近藤悦子(経)
- ・第2回ILLシステム講習会(於：国立情報学研究所) 6.13~14 参加者：八田和子(中)
- ・平成14年度愛知県地区国立学校等新任係長研修(於：名古屋大学および国立乗鞍青年の家) 6.25~28 参加者：大澤剛(中) 川添真澄(中) 石田康博(医) 豊岡曜子(医保健)
- ・平成14年度大学院基盤医科学実習「文献検索」(於：医学部講義室および医分館) 6.25~28,7.2~3 参加者121名
- ・電子ジャーナル利用説明会(於：名古屋大学国際開発研究科・教育学部) 6.26 参加者45名
- ・New JOIS説明会(於：科学技術振興事業団中部営業所) 6.27 川添真澄(中) 大嶋寛子(中)

#### 人物往来

- <はじめまして> - 新しく採用になった人 -
- 小山鮎子(情報連携基盤センター) 5.1
- 大嶋寛子(情報サービス課参考調査掛) 6.24
- <今後ともよろしくお願ひします> - 育児休業に入る人 -
- 竹内佐知子(情報サービス課参考調査掛) 6.24(平成17年3月31日まで予定)

#### 規程改正など

- ・医学部保健学科図書専門委員会細則(14.6.19改正)

#### 部局動向

- ・多元数理科学研究科図書室：電算貸出開始(4.8~)

#### 編集委員会

- 白井克巳(委員長) 鈴木誠(中) 飛田美穂(中) 山下眞弓(中) 森由香(法) 眞野博和(農)
- 久納優希(文) 渡辺暢子(医保健)